

わおん 通信

2016
夏号
vol.21

特集

あなたの暮らしに「かしこい選択」



CONTENTS

P2 - P3

県内地域の取り組み

COP21 直後の養成講座を開催
 親子が集う目玉イベント開催
 地元富士TVドラマ化のイベント出展で環境保全
 吉野の郷でバイオマス発電開始

第7回 推進員マッツちゃんの
 あ~したら、こ~なった!

P4 - P5

あなたの暮らしに「かしこい選択」 合言葉はCOOL CHOICE

P6 県情報

環境学習アドバイザー派遣事業の活用

P7

推進員さん訪問記⑰
 なるほど ザ・ワード

P8

INFORMATION

COP21直後の 養成講座を開催

2016年3月5日・6日
(橋本市・和歌山市) 和歌山県センター



温暖化防止推進員の第12期の養成講座を実施しました。2015年末に開催されたCOP21パリ会議にて世界各国の目標が明確にされたタイミングでの講座でしたので、これまでの講座では触れなかったような話題にまで踏み込んだ内容となりました。COP21のトピックスとして、採択までの期間中は交渉が難航し、欧州連合(EU)など100カ国が連携し働きかける「野心連合」という活動によって突破口が見いだされるなどの大きな貢献があった点。今回、日本は積極的なメッセージが少なかつた点も背景となり、

最終日の連携となったことも説明しました。現状では世界第5位のCO₂排出国だからこそ、家庭や個人ベースでの行動変革が急務であり、温暖化防止推進員の役割は日本の国際信頼の回復において重要であることが確認されました。一方では、推進員としての啓発活動の際には、未来や現在の危機をおおる論法ではダメで、豊かで生きがいの持てる暮らしの中で、子供でも誰でも実践できる温暖化防止型のライフスタイルへの誘いでないと継続した行動変革にはつながらないだろう、だからこそ楽しさの演出が重要だろう、という話で講座を終えました。

(センター長 中島)

親子が集う 目玉イベント開催

2016年3月6日
岩出市総合保健福祉センター

[ストップ温暖化岩出の会]



「親子で体験する環境教育」をテーマに今年も出展しました。体験コーナーは、温水と冷水を入れるとすぐ発電する温度差発電装置を展開。取り付けられた2色の回転駒が勢い良くまわる様子に子どもたち



(推進員 城 保宏)

ち、大喜びの様子でした。制作コーナーではゴムの力で自走するユーターンカーと古代戦車を用意。それぞれ思いおもいのデザインを施しオリジナルを完成させていました。さらに、ビンゴ形式のマス目に回答していくと環境のことが分かる「えこわかビンゴ」にも挑戦。ヒントが詰まった温暖化冊子も合わせて配布し、関心を持つきっかけづくりに励みました。今年は天候にも恵まれ、100名の親子が参加し、推進員5名がフル活動で対応したイベントとなりました。

地元勇士TVドラマ化の イベント出展で環境保全PR

2016年5月7日
真田まつり(九度山町)

[伊都・橋本地球温暖化対策協議会]



今年のまつりはTVの大河ドラマの影響もあり、5万人の来場者で賑わった2日間でした。当協議会は「真田の市」に出展し、生物多様性と温暖化防止のPRを行いました。ブース内では里山に生息する



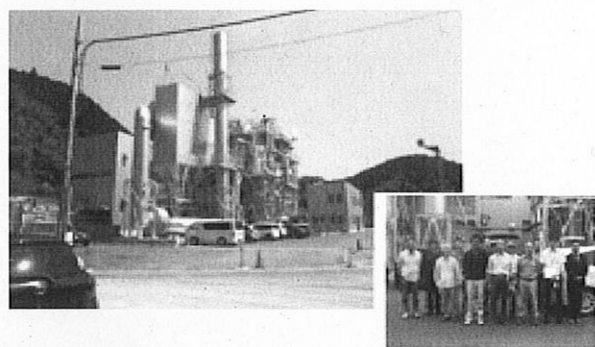
(推進員 黒井成男)

メダカやアカハライモリを展示。子どもたちは手に取ってその姿をじっくり観察していました。クラフト教室では、竹の間伐材を活用した「竹のトンぼづくり」にチャレンジ。自然の素材から手作りで完成させるおもちゃづくりに親子でもらいました。また、同伴の親御さんたちは、簡易診断ソフトを使った家庭の省エネ診断を受けて、省エネ対策やCO₂削減方策のアドバイスを耳を傾けていました。今回も良い思い出を感じました。今後も温暖化防止に向けた啓発活動を実施していきたいと思っております。

吉野の郷で バイオマス発電開始

2016年5月25日
吉野発電所(奈良県)

各所で実施されている木質バイオマス発電事業。和歌山県での可能性を探るため、昨年12月に営業運転を開始した吉野発電所の見学会を実施しました。この日は、推進員、市職員、建築関係者ら11名が参加。設備について担当者から案内を受けました。出力6千500kWに使用される燃料は、間伐材等の未利用材を中心に6,000トン/月のチップが投入されます。これらを燃焼させて年間4千3百万kWh発電し、約1万2千世帯分の電気を賄っていると聞き、その高い出力に驚きまし



た。また、発電所で14名、林業従事者約50名の雇用創出につながっているという波及効果もあるとのこと。今後は、発電所から出る排温水と燃焼灰をいかに農業などに利用していけるかが課題だと聞きました。

県内においても、木質バイオマスの有効利用先として発電所の建設が検討されていますが、先人のいいところを学んでCO₂の削減に寄与していただきたいと思っております。

(推進員 黒井成男)

第7回 推進員
マツちゃんの

あ~したら、こ~なった!

真昼に灯る水銀灯・ふたたび

前回と同じような話で恐縮です。今年1月下旬のこと、岩出市内の有名回転寿司チェーン店の前を午後3時ごろに通りがかると駐車場の水銀灯が6本も点いている、店舗の側壁にも8個の電灯が点いていて、まだ明るいのにどうしたのか?と思いました。そして数日してまた3時ごろに通りがかるとやはり点いているので、これはセンサーが故障しているかも?と確信、お店の責任者に詳細を告げました。が、責任者はピンとこない様子で何も言いませんでした。そして今度は数日後のお昼前を通りがかるとやはり点いている!! これはおかしいと思い、お店の女性に「昼間から水銀灯と電灯が点いていますよ」と言いましたが、「それがどうしたの?」という感じで電気の無駄使いなど範疇にない様子。

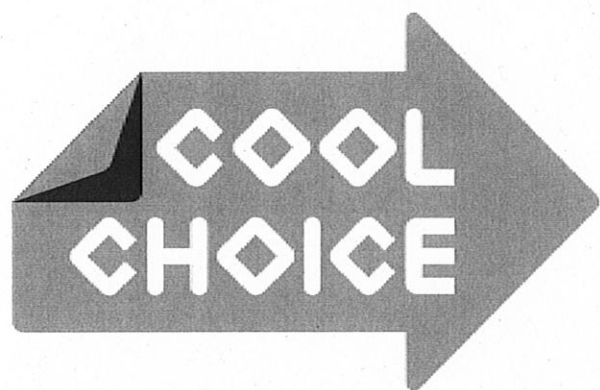
私は約1週間後に今度は大阪のチェーン店本部に推進員であることを告げて詳細を電話しました。お客対応の女性だと思いますが、「一応調べてみます」とのことでした。しかし、約1週間が過ぎても岩出店の6本の水銀灯と8個の電灯は午前中から点きっぱなし・・・

そこで私はしつこくまた電話!! 今度は同じ女性が「無理かもわかりませんが、もう一度伝えます」との回答となりました。

3日後、昼間から点いていた水銀灯と電灯は見事に消えています。どんな事情だったかわかりませんが、無駄な電気使用を無くすことができました。

このコーナーでは推進員の方々のCO₂削減活動を募集しています。ぜひ、「私はこんな活動をしました」という声をお寄せください。

「かしこい選択」COOL CHOICE キャンペーンはじまっています



そこで環境省から提案されているのが、COOL CHOICE (クールチョイス) という取組。私達の日常の仕事や生活の中でなされている「選択」という側面に注目し、温室効果ガス削減に繋がる行動を意識的に選び取ろうという呼びかけです。

暑い時はネクタイをはずし、エアコンの温度を上げる。自然の風や扇風機も利用する。白熱電球がきれたら今度はLED電球に取り替える。車選びは燃費を基準に。車のアイドリングはやめる——こういったことはすでにみなさんがされていることですよ。でももっといろいろ

な場面で、もっとたくさんの方が、こういった選択をするようになることが、業務・家庭部門での現実的な削減につながります。

具体的な取組としては、まず会社やお店や団体で、あるいは個人で、COOL CHOICEへの「賛同登録」をします。登録すると、COOL CHOICEのロゴマークを使用できるようになり、会社や個人の取組をCOOL CHOICEとして宣伝できるようになります。例えば、イメージ1, 2のように。こうすれば、一人で黙々とがんばるだけでなく、みんなにもスマートに必要なことや効果を訴えることができますよね。アイデアを出し合って「おっ、こんなこともできるんだ」と気づかせたり、「みんながするんだったら私もやろうかな」って感じで取組を広げることもできそうです。推進員さんたちの活動ツールとしても利用できそうです。

すでに、多彩な事業所や市民グループが登録しているいろいろな取組を進めています。

今後、県センターから詳しくご案内いたします。

イメージ1

東京都千代田区役所で。照明スイッチにロゴマークを貼り付けて、こまめな節電を呼びかけ。お店や家庭でもやれそうですね。



イメージ2

大手チェーンスーパー店内のペットボトル回収機に。



「節電所」さらに推進

和歌山県地球温暖化防止活動推進センターでは、以前から「地域節電所」という取組を行っています。家庭や事業所でのそれぞれの取組による温室効果ガス削減効果を推計し、それを集団的に推進することによって相乗効果を生もうという趣旨で、2013年度から2015年度までの累計で、148.5トンという効果が報告されています。

一人ひとりが節電することは、地域としてエネルギーを生むこと。それは温暖化防止への大きな選択です。COOL CHOICEのキャンペーンに重ねて、この運動もいっしょに広げていきませんか。

詳しい案内は最終ページを御覧ください

環境学習アドバイザー派遣事業の活用

県では、豊かな自然を守り、受け継いでいくために、県民の環境保全に関する活動を支援し、環境学習の推進を図る「環境学習アドバイザー派遣事業」を行っています。環境分野（地球環境、大気・水・土壌環境、自然・動植物関係、ごみ・リサイクル及び環境学習全般）の有識者をアドバイザーとして登録し、県や県内の市町村、学校、事業者、住民団体等が主催する学習会・研修会等に派遣しています。ぜひ、ご活用ください。



(県)環境生活総務課ホームページ参照

和歌山県 環境 派遣 で検索

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032000/gakusyu/adviser/adviser.html>

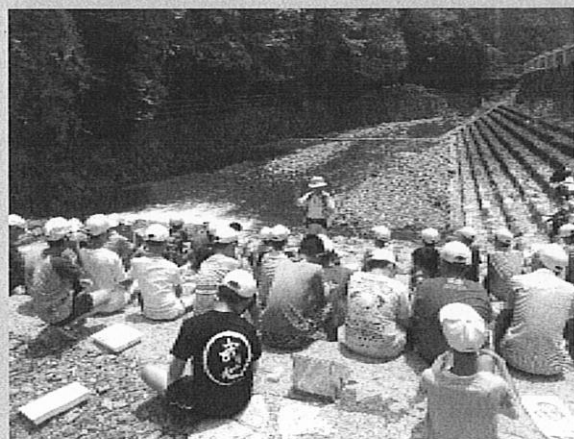
問い合わせ先

和歌山県 環境生活総務課 Tel.073-441-2670

実施報告書より

○「春の遠足」(動物園)

それぞれの動物の足の予想をするワークシートをご準備いただいた。当日の観察意欲の高まりが見られ、実際に動物を観察するときには、予想と比較することで驚きも大きかった。指の数や爪の



形の答えが気になる子供たちではあったが、動物が住んでいる環境や食べ物などを、その動物の前で教えていただくことで、その特徴や新たな発見があり、心に残ったようである。

○「水の生き物、植物の観察から環境優先の生活実践へ」(会場周辺)

在来種の貝、エビ等に加えて、ザリガニやスクミリンゴガイ、体長30cmほどもあるアカミミガメなど、外来種も多く見つかりました。在来種の生息状況から、生活排水がどれくらい生き物に影響しているかについても考える機会になりました。

○「生き物観察」(磯)

生き物観察の仕方・捕り方と諸注意を聞き観察開始。子供たちが捕まえた生き物について詳しい解説を聞き、いろいろな生き物について知ることができた。生き物を身近に感じ、捕まえたり触ったりすることができた。海にも山にも自然がいっぱいあることに気づくことができた。

(平成27年度55回の学習会に延べ70名を派遣)



コジローの

推進員^{ひよっこ}さん^{〇〇}の訪問記^⑦



橋本市 中谷 八重子 さん

橋本市で築150年の古民家にお住まいの中谷八重子さんは橋本生まれ橋本育ちの第4期推進員。地元高校を卒業後、大阪市内の百貨店に勤めたのち橋本市在住の男性と結婚して二男一女に恵まれます。以後、地元で教育にかかわり子供会活動や小中統廃合などに取り組みながら5枚の水田を耕作する一方、通信教育で大学法学部を卒業するなど前向きで多忙な人生を歩んできました。

環境に関心を持ったきっかけは、鯉など死んだ魚が浮く汚れた池を見たこと。生活排水が流れ込みホテルも消えていました。「これはいけない、子供たちに良い環境を残さなければ・・・」と中谷さんは生活環境保全運動を始めます。住民や行政に熱心に訴えて苦節10年、その努力が和歌山県で第1号の農業集落排水事業となる橋本市吉原浄化センターとして結実します。池にはやがてホテルが残り、今では名所となりました。こののち、県内には50か所以上の浄化センターが設置されますが、その先駆的な功績により平成19年、中谷さんに和歌山県環境賞が贈られました。

推進員養成講座への応募は県職員からの紹介を受けて。「次は地球環境問題に取り組みよう」と受講し、「日常生活の工夫で温暖化を防止できること」や「様々な技術でCO₂が削減できること」を知って感動したといいます。「温暖化防止は自分の使命」と悟った中谷さんは、市長や議員を巻き込んで温暖化対策協議会を立ち上げること、里山を守り橋本

市柱谷地区の棚田を復活させること、人とのふれあいから温暖化防止を訴えていくこと、の3つの方向で活動、ポスターやチラシの配布、マイバッグ運動、イベントの開催等に積極的に取り組むとともに、2009年にはコペンハーゲンで開催されたCOP15にも当時の県センター長とともに参加しました。

ところが昨年、中谷さんは里山学校の作業中に脳梗塞で倒れ、車いす生活になってしまいます。しかしここでくじけないのが中谷さん。推進員活動を続けるために「なにくそ、負けるか！」とリハビリを頑張り、8カ月後に歩けるようになりました。現在はイベントや会合で「温暖化防止のおばさん、として暮らして出来る温暖化防止活動を紹介、またフェイスブックで毎日グリーンカーテンや野菜・草花・土作りを紹介、自然の大事さや温暖化防止をさりげなくPRしています。そのネット上の「友だち」は431人、なかには著名な政治家も含まれているそうです。

中谷さんはいま地球温暖化への世間の関心が薄れ、また市民レベルの取り組みも弱まっていることが残念でなりません。そんなとき思い出すのが、お父さんが遺してくださった「八重子、市川房枝氏は偉大な人だ。お前はいくつになっても自分の道を全うしなさい」との言葉。この遺言に励まされながら、温暖化防止活動も人生も、いつも前向きに進んでいこうと考えている中谷八重子さんでした。

なるほどザ・ワード

STOP温暖化・焦点の言葉 ⑦

*地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

南極の水は増えているのか減っているのか

温暖化が進めば南極などの氷が融け、海水が膨張する影響とも相まって海面は上昇すると言われます。しかし昨年秋NASAの気象学者チームは、「南極の水はむしろ増えている」とする研究論文を発表しました。同チームによれば、「西南極の氷河質量減少は、降雪の増えた東部内陸で氷河が厚さを増したことで相殺されている」とし、差し引きで南極の水は毎年およそ1000億トンずつ増えているということです。元々酷寒の南極は少々温暖化しても十分に低温なので、温暖化した海からより多く水蒸気の供給を受けて雪が増えれば、氷が増える可能性もあることは否定できません。真相はどうなのでしょう。

これに対し、多くの気象専門家はNASAがひとつの衛星の観測データのみでこの結論を導いたことを批判し、1~2cmの高低差で結果が大きく変わる研究に用いる手法として不適切としています。また、仮にいま少しばかり氷が増したとしても、長期的に見た南極雪氷の動向に影響はなく、「近い将来に起こる西南極氷床の完全な崩壊は決して相殺されない」という認識でも一致しています。もちろん、NASAのチームも地球温暖化自体を否定しているわけではありません。

もし西南極の氷が全て融ければ、一気に数メートルもの海面上昇を招く可能性があります。氷が増えているかどうかより、こうした破局的な事態に至らない手立てを尽くすことがいま、優先されるべきでしょう。

イベント案内

●今年の夏も「せつでんしょ」

【わかやま「節電所」建設プロジェクト2016】参加募集

4年目を迎えます【わかやま「節電所」建設プロジェクト2016】これまでに、のべ1,684世帯が取り組みました。今年も開催です！ご近所さんやお友達をぜひお誘いくださいませ



◆応募期間：7月1日(金)～9月30日(金)

◆詳しくは
http://wenet.info/save/ または
わかやま 節電 で検索

◆問い合わせ
わかやま「節電所」建設プロジェクト2016事務局
073-499-4734 (わかやま環境ネットワーク内)

●緑のカーテンコンテスト 写真大募集

今年はゴーヤを育てて緑のカーテンをつくってみませんか

ゴーヤをはじめとする「緑のカーテン」を育て、写真に撮って応募ください。選考の上、優秀作品には素敵なグッズをプレゼントします。また、ゴーヤの種を希望される方は下記まで、お知らせください。無料でお送りいたします。

◆応募方法：住所・氏名・電話番号を記入の上、右記まで写真を送ってください



◆応募先アドレス

e-mail kurois603@yahoo.co.jp

◆応募期間：7月1日(金)～9月30日(金)
「エコランド・いとはしもと」では、エネルギーの地産地消と省エネ推進に取り組んでいます。

◆申込先：「エコランド・いとはしもと」

FAX：0736-22-8388

e-mail kurois603@yahoo.co.jp

●出展団体募集

- ⇒ 3Rに取り組む市民活動や
- ⇒ 自然保護+資源の利活用をすすめる活動

廃棄物資源循環学会 第27回研究会 開催

日時 2016年9月27日(火)～29日(木)

会場 和歌山大学

和歌山大学では、地域で3Rを推進する市民団体や、環境保全を行ない、そこから発生した廃棄物の再利用を行うなどの団体のパネル展示を募集しています。自薦、他薦は問いません。

7月15日(金)までに下記県センター宛お知らせください。

◆主催：一般社団法人 廃棄物循環資源学会

◆後援：和歌山県、和歌山市、和歌山大学

●わかやま推進員サイト 運用中!

わかやま 推進員 検索

県センター通信

いよいよ夏スタート、梅雨入りとともに幾分不安定な天気となっております。いかがお過ごしでしょうか。今年度より、事務局体制も少数精鋭!?となり、日々の業務に追われております。ただいまボランティアいただける方を大募集!ぜひお手伝いをよろしくお願いいたします。事前にお電話をいただくと、とてもうれしいです。

昨年COP21にて「パリ協定」が採択され、私たちの活動も推進員おひとりおひとりの積極的な取組が欠かせません。お送りします資料について、ご一読いただき1人でも多くの方への啓発活動に励んでいただければと思っています。まずは「節電所」&「COOL CHOICE」です。よろしくお願いいたします!

